

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202296		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム胡桃(くるみ)		
所在地	長崎県佐世保市黒髪町4522		
自己評価作成日	平成 30 年 12 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 31年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さまざまなイベントを通して、地域の皆様のご理解、ご協力のもと楽しく生活しています。毎日を楽しく、明るく元気よくを理念に、職員も明るく元気な方ばかりで笑顔と笑いの絶えないアットホームな事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは町内会に加入し、地域で行われる運動会や祭りのほか敬老会などの行事にも参加し、地域との交流を深めている。訪問当日にも近所の地域住民から野菜の差し入れがあるなど、日常的な地域との交流が窺える。定期的に母体のグループ事業所全体で職員会議を開催しており、職員と代表者とのコミュニケーションも円滑に行われているほか、ボーリングやバレーボール大会を行うなど職員同士の親睦も深めている。また、リフレッシュ休暇制度を設けるなど職場環境の整備にも努められている。ホーム共用空間には季節に応じてティッシュを使用した手づくりの飾り付けがなされ、入居者にも好評となっている。ホームでは毎朝清掃を実施しており、その際に次亜塩素酸水を使用するほか、玄関にはアルコール消毒液を設置し感染予防に繋げている。職員はホーム来訪者へ明るく元気の良い対応を行っており、気軽に立ち寄れるような雰囲気があるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム胡桃

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方との交流を重視した理念を大切にしながら生活を提供するよう心掛けています。理念の通り職員も明るく元気に一緒に楽しみながらケアにあたっています。	ホームでは、地域密着型サービスの意義を踏まえた運営理念を誰もが分かりやすいよう玄関入り口に掲示しており、日々の介護や地域との交流等の実践を通して職員間での理念の共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町内会に加入しています。町内の敬老祝賀会や神社の例大祭に参加しており事業所のイベントには沢山の方々が来て下さり交流を図っています。また手作りの物を作って持って来て下さる方もおられます。	ホームでは町内会に加入し、地域で行われる運動会や祭りのほか、敬老会などの行事にも参加し地域との交流を深めている。訪問当日にも近所の地域住民から野菜の差し入れがあるなど、日常的な地域との交流が窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にイベントや消防訓練に参加して頂き、また反対に地域行事に呼んで頂き参加することで交流になり認知症の方の理解をして頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況や活動報告、職員の状況やイベント、研修内容、身体拘束についての報告やその他ご意見交換を行っています。	運営推進会議ではホーム内の活動状況など各種の報告を行うとともに、各回でテーマを設定し意見交換がなされている。尚、ヒヤリハット報告については、職員の共有化を図るために更なる工夫が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席頂きアドバイスを頂いています。また認定更新の際に担当者様へ利用者様の暮らしぶりや状況、事業所の取り組みを伝え協力関係を築くようにしております。	運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加があり、行政や地域の情報を得て意見交換を行っている。市担当者とは入居者の要介護認定や生活保護関連などについて連絡を取り合っており、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関施錠を解除しています。職員同士が見守りを行っており外へ出られる方に対しては声掛けを行い一緒に出るようになっています。研修にも積極的に参加し身体拘束のあり方について学んでいます。	訪問調査日現在、身体拘束が必要な入居者はいない。職員は内部および外部での身体拘束に関する研修に参加し、身体拘束の弊害について学んでいる。運営推進会議終了後には身体拘束廃止委員会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修に参加をし、事業所内で虐待が見過ごされないよう職員がお互いに注意を払っています。不適切な言葉遣いをしないよう日頃から代表者に言われており防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースは管理者、支援専門員が対応する事となっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等の際は時間をとり丁寧に分かりやすく説明するようしております。利用料金、その他につきましても管理者が説明を行い、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に各種相談窓口について説明しており玄関には意見箱を設置しています。ご家族様の来所時等にご相談にのることもあります。気軽にお話しして頂ける雰囲気作りに心掛けご意見要望をお聞きして行けるように努めています。	ホーム玄関に意見箱を設置しており、家族にも細目に連絡を取るようにし、遠方の家族にも入居者の状況が分かるよう個別に毎月ホーム便りを発行し、様子を伝えている。苦情に繋がった事例も窺えない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行い代表者、統括部長、管理者、介護支援専門員、経理を含め職員全員参加し意見や提案を言えるようにしています。	母体のグループ事業所全体で職員会議を定期的で開催しており、職員と代表者との意見交換がなされている。また、ボーリングやバレーボールなどを行い職員同士の親睦を深めるとともに、リフレッシュ休暇制度を設けるなど職場環境の整備にも努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議を毎月開催し各事業所が働きやすい環境で業務を行えるよう整備に努めています。またバレーボールやボウリング大会など職員の福利厚生を充実させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、グループホーム協議会の研修、その他行政主催の研修には参加出来る様になっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の本部に所属しており全体交流会では夜勤者以外全員が参加した。また研修等でも他の事業所との交流の場があり情報交換や質の向上に向けて活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントや生活歴を確認し要望等をじっくり傾聴し安心して過ごせるように努めています。また職員全員で共有できるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、求めているものは何かを事前に十分に話し合う場を設け、信頼関係が作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に対応が必要な相談者には可能な対応を柔軟に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事を考えながら本人様主体で介護を行っています。人生の先輩として、または、家族のように全員が同じ時間を過ごしているという関係を築くように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはご本人様の状況を毎月お便りを作り送付しています。必要に応じては電話で連絡を差し上げたり来所して頂いています。行事の参加の声掛けも行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と食事や馴染みの理美容室、お孫様の運動会、法事等に出掛けられたりご友人の面会もみられ、その際には馴染みの関係が途切れないように努めております。	ホームでは入居者の友人や知人の訪問や近所の方の来訪がある。ホーム来訪者への職員による明るく元気の良い対応が、ホームに気軽に立ち寄れるような雰囲気へと繋がっていることが窺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単に出来る体操を毎日行っており関わりを持てる場作りを行っています。利用者様同士の関係については職員が連携し情報を共有して行くよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も訪問して下さるご家族様もいます。ご本人様の状態やご家族様の相談の支援も行って行くよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や行動から思いを尋ねたり感じたりし、職員で共有するように努めている。また困難な場合は表情や身体で拒否をしていないかを確認しながら検討しています。	意思表示が困難な入居者について、職員はその表情などからその方の思いを汲み取り、職員間で共有を図りながら日々の支援に努めている。また、ユマニチュードケアの研修を受講し実践に繋げるよう努められている。	改めて意思表示が困難な入居者の思いや意向の把握、コミュニケーションなどが十分にできているかを職員間で振り返り、ユマニチュードケアの更なる実践に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方今までどのようにしてこられたかを掘り下げて、少しでも不安や違和感を感じさせないような支援に努めるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、状態を見極めながら出来ない事よりも出来る事に着目し役割を持って頂くように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が毎月報告書兼評価表を記入し確認しています。プランも介護支援専門員と一緒に検討しながらそれぞれの意見も必要に応じて話し合いご家族様の要望もお尋ねしながら計画を作成しています。	入居者の状況については各担当職員が報告書兼評価表へ記入し、確認している。ケアプランは非常勤職員の介護支援専門員が作成しており、職員との話し合いや入居者の状況把握を行い、入居者本人や家族の要望も聴いた上で立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意しておりご本人様の状態、状況が1冊の中でわかるように工夫しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プランに沿って行うのはもちろんですが、その時の希望や状況、状態によって支援を円滑に検討し柔軟に支援・サービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方との交流や民生委員様や区長様と意見交換する機会を設けており充実した暮らしが継続出来るように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医を紹介いたしますが、かかりつけ医を希望される方はご家族様と職員が連携し受診対応しています。	ホームのかかりつけ医による訪問診療が週に1度あっている。ホームには常勤の看護師がおり、入居者毎に健康管理票を記入し、医療機関とも連携している。また、月に1度歯科医の訪問があり、口腔ケアがなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が健康管理票を記入しており些細な事でも記録に残すようにしています。変化があれば主治医に連絡し指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご利用者様への支援方針に関する情報を医療機関へ提出し、円滑にまた早期に退院出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針の説明を行い、同意を得ています。重度化した場合はその都度ご家族様の意向を踏まえ職員と医師との連携を密に図りながら安心して納得した最期を迎えられるように努めています。	ホームでは看取りに関する指針を作成しており、入居時に説明を行うとともに、看取り期の段階に至った際には改めて家族の意向を踏まえた支援がなされている。急変時の対応に関するマニュアルについても整備されており、その手順を文書化してホーム事務所内に掲示している。医療機関と連携し、協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内や外部の研修又は消防の方より直接指導を頂き実践を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災、地震想定での避難訓練を実施し年に一度は消防立会いの元、地域の方の協力も得て総合避難訓練を実施しています。研修にても災害の事を学んでいます。火災を未然に防ぐために毎日夕方施設内外の確認を行い記録をつけています。	ホーム避難訓練は、民生委員や近隣住民の協力を得て実施しており、訓練終了後にはホームフロアでカレーライスを振る舞うなど、地域住民との協力関係が築かれていることが窺える。また、AED(自動体外式除細動器)や心肺蘇生の訓練のほか、重度者を想定し毛布を利用した訓練も実施されている。	避難訓練実施後の消防署からの指摘事項やアドバイス、また、職員の反省点や次回につながる改善点などについて明確にし、記録に残しておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩とし日々気を付けるようにしています。また家庭的な面も同時に大切にしているため親しみのある言葉も使いながら声掛けや対応を行っています。研修にも参加しています。	職員は佐世保弁を交えた親しみを込めた言葉掛けを行っている。入居者本人にとって適切な言葉掛けであるのか家族にも確認し、説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを大切に声掛けや見守りを行い無理なく自己決定出来るように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、柔軟に対応しています。出来る限り希望に沿って過ごして頂けるよう支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットに来て頂きカットをお願いしています。ご家族様と馴染みの理美容室に出掛けられる方もいます。また毎朝整容を行い着替えは可能な限り一緒に選んで支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ四季ごとに楽しめるメニューやお誕生日メニューも提供しています。時折広告を見ながら何を食べられたいかをお尋ねしたり、配膳下膳を出来る範囲以内で行っています。	ホームでは入居時に食事についての嗜好の確認を行い、職員手作りの食事が提供されている。食堂では、入居者と同じテーブルで職員も一緒に食事する姿が窺えた。時季により特色のある料理の提供を行うほか、外食に行く機会も設けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し個人の体調や摂取量を把握しています。栄養バランスや健康状態、口腔内の状態に応じてキザミ食やトロミ食の提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立の方は声掛けにて促しを行いご自分で困難な方はブラッシング介助を行い口腔内の清潔を保ち嚥下障害による肺炎の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄時刻と状態量をチェック表やボードを利用してそのリズムを把握し尿意の無い利用者様にはトイレ誘導を定期的に行っています。	職員は入居者の排泄状況を排泄チェック表に記録するとともに、ホワイトボードを活用して本人の排泄パターンに応じて定時誘導に努めている。外出時にも予めトイレの場所を職員が把握し、スムーズに排泄ができるよう配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄記録をとりそれに基づいて、ヨーグルトや牛乳を沢山入れたココアなどの乳製品を飲食して頂いています。それでも無理な場合は看護職員に相談し処方されている下剤を服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は火・木・土・予備日を日曜として支援を行っていますが毎日入浴は可能です。入浴を拒まれる方には時間を置いて再度声掛けをおこなったり、別の職員が声掛けを行うなどしています。気持ちよく入浴できるような色々な入浴剤を使っています。	入浴日は火曜・木曜・土曜に加え、日曜を予備日としているが、入居者本人が希望すれば毎日対応することも可能となっている。汚染などがあつた際などには、適宜シャワー浴も実施されている。時季によって菖蒲湯やゆず湯など、入浴を楽しめるような配慮も窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操や散歩を取り入れて活動を促し生活リズムを整えるように努め夜間安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルにして保管し職員がいつでも確認出来るようにしています。服薬管理は看護職員が行い服薬は確実にこなうよう飲み込み確認を行い飲まれた後は記録をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野や出来そうな家事の手伝いをお願いし役割を持って頂き張り合いを感じて頂くよう努めています。その都度感謝の言葉を伝えていきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と外食や散髪、お孫様の運動会、地域の敬老祝賀会や神社の例大祭、同法人内での合同誕生日会やお花見など可能な限り支援を行っています。また天気が良い日は散歩をしています。	ホームでは、母体の関連事業所と合同で誕生会を実施している。また、地域の敬老祝賀会や神社の例大祭に参加する機会があるほか、ホーム近くの花見ができる場所へ外出するなど、家族の協力も得ながら外出できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が理解が難しくお金を所持される方はいません。ご本人様やご家族様からお預かりしたお金はきちんと管理し必要な場合は対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおられます。電話がかかってきた際は取り次いでいます。お孫様やご友人から手紙やはがきが届いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を徹底しています。ホーム内でも四季を感じて頂けるように利用者様にもお手伝いをして頂きなが飾りつけをしています。また温度、湿度には気を付けています。	ホーム共用空間には季節に応じてティッシュを使用した手づくりの飾り付けがなされ、入居者にも好評となっている。清掃は毎朝実施しており、次亜塩素酸水を使用しているほか、玄関にはアルコール消毒液を設置し感染予防に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアには大型のソファとリビング用テーブルを設置しておりゆっくりと過ごせるようにしています。また利用者様同士談話されたり、新聞やテレビを観たりと思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具や布団、写真や思い出の品が持ち込まれ違和感なく過ごせるように配慮しています。	居室には入居者の思い出の写真や家具など、特に制限なく持ち込むことが可能となっている。仏壇の持ち込みや宗教観など、本人の意思を尊重した対応がなされている。	現在、居室には収納が難しい為、昼間使用していないポータブルトイレが置いてある居室も散見された。まずは入居者本人の使い勝手や介護の動線にも考慮しながら、目隠しなどの工夫を行うなど居心地の良い空間として配慮することに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人、お一人の状況、状態に出来るだけ合わせ「出来ること、わかる事」を見守りながら支援を行い安全に過ごせ自立出来るように心がけています。		